

令和 5 年 9 月 5 日

火山噴火予知連絡会
火山活動評価検討会 第 1 回口永良部島地域会合による
口永良部島の火山活動の検討結果

口永良部島では、火山活動が高まっており、古岳及び新岳付近において噴火が発生する可能性があります。噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石、および火砕流に警戒が必要です。

口永良部島では、6月以降、火山性地震が次第に増加し、7月9日から15日にかけてさらに増加しました。その後は次第に減少していますが、6月の増加前よりも多い状態が継続しています。火山性地震は主に古岳付近で発生していますが、新岳付近での発生も認められます。干渉 SAR による地殻変動観測では、5月以降、古岳火口周辺で膨張性の変動が観測されています。また、GNSS 連続観測では、6月下旬頃から古岳付近において山体膨張を示す変動が認められています。

8月15日から20日にかけて実施した無人航空機による観測で、古岳の噴気活動が活発化し、火口内及び火口縁付近で地熱域が拡大しているのを確認しました。また、火口底の南東側に新たな噴気地帯が形成され、土砂が噴出しているのを確認しました。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は8月以降、1日あたり200～400トンと増加し、やや多い状態となっています。

現在のところ、口永良部島のやや深部に多量のマグマが供給されたことを示唆する地殻変動は認められていませんが、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が増加していることから、今回の活動にはマグマが関与していると考えられます。古岳においては、浅部の地震の多発や火口周辺の隆起、及び噴気活動の活発化を考慮すると、水蒸気噴火による大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。また、新岳においても、火口直下の地震活動及び熱活動も継続していることから、噴火の可能性は否定できません。

これまでの新岳での噴火を踏まえると、やや深部におけるマグマ貫入に伴う膨張や火山ガス（二酸化硫黄）放出量のさらなる増加、体を感じる地震の発生といったマグマ供給の増大を強く示唆する変化が起こった場合等においては、さらに規模の大きな噴火へ進展する可能性も考えられます。そのため、今後の火山活動の変化を引き続き注意深く監視していく必要があります。